

# 2023 度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

## 1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の4つのつばさを育てることを教育・保育方針とする。

そのために次の項目を保育目標とする。

- ①わくわく どきどき を楽しむ子
- ②心を豊かに 思い合える子
- ③できる！ できた！ を感じる子

## 2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2 歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計る。
- ・個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。
- ・遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む
- ・義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

## 3. 学年別目標・計画

0 歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1 歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2 歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

#### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p><b>1. 保育目標の理解と周知</b> 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか</p>	<p>保育理念、方針、目標は週に1回朝礼時に職員で唱和を行っている。常に教育テーマの「楽しい教育」を念頭に置き、年齢に見合った保育と一人ひとりに対する心身の成長を支えることを心掛けることができた。概ね職員の共通理解を得てきたと感じる。非常勤職員に関しては年に数回の唱和にとどまっているが、基本理念として非常勤会議等でも伝えて共通理解を得ているので今後も続けていく。</p>
<p><b>2. 保育内容</b> 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか</p>	<p>保育目標を念頭にモンテッソーリ教育の理念の基、戸外での散歩、探索を日々取り入れながら、子ども達の小さな想いや活動を観察し、次への遊びの準備、発展が得られるように、クラス担任での保育カンファレンスを毎日設けている。園児の興味や関心を職員や保護者と共有するためにクラス毎にドキュメンテーションを作成し掲示、活用している。クラス会議では情報の共有を行い、非常勤職員用のクラスノートを作成しクラスの状態把握を全員で見えるように工夫して情報の共有を行っている。一人ひとりへの関りの中に、教育、養護を意識し、全職員が個に対しての目標をもって関われるように取り組みを意識している。リトミックやリズム遊び等運動遊びに関しては今後も意識的に計画し、実行できるようにしていく必要がある</p>
<p><b>3. 保育環境</b> 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか</p>	<p>保育目標に掲げる「できる！できた！を感じる子」にあるように、子ども達の本来もつ「自分でできる力」を発揮できる場を職員は常に意識している。生活習慣の獲得が出来るように、一人ひとりの成長発達に合わせて「大人が準備し援助できること」「観察し見守ること」を常に意識し関わっている。モンテッソーリ教具の環境設定や取組に関しては、職員が子ども達の様子に合わせて提供しているため、教具スケジュールに年度毎に若干の違いはあるが、無理強いをしないようにしている。</p> <p>今年度も「虫と自然の展覧会」を行い、四季を意識した掲示物、展示を行った。</p> <p>また、例年、畑での作物作りを行い、果物や野菜の成長観察、もぎ取りを行い、自然観察に活かしている。</p>
<p><b>4. 行事</b> ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか</p>	<p>今年度は春の懇親会と秋に行っていた乳児運動会を一体化し、5月に「ふれあい運動会」を開催した。乳児にとって「運動会」をメインに考えるより、保育士、お友達、親子との触れ合いの場を大切にしたいイベントとして見直しを行った結果、子どもは勿論、保護者にとっても保育士にとっても楽しく無理のない行事の展開となった。次年度も運動会の開催は見直しを検討している。秋には親子で土に触れることを目的とした芋ほりと焼き芋の提供を行い、好評であった。保護者参加保育、クリスマス会など普段の生活にも触れる機会を持ち、保護者に園に直接関わっていただくことに重点をおいた。結果、保護者からの感謝の言葉を頂くことが多くあり、子ども達の普段の姿や保育士との関りへの理解も深まった。保育士の励みにも繋がっている。</p>

<p><b>5. 食育</b> 保育の一部となるような活動を行っているか</p>	<p>夏野菜の栽培では、きゅうり、ナス、ピーマンなどの野菜を育て、収穫して食べることを行った。保育の中で、保育士は季節に合わせて野菜や果物、花など、なるべく本物を提供し、触る、匂う、など五感を育てることを大切にしている。今後の課題としては給食室の方との連携を深め、作ってくださる方に感謝する気持ちを持つべく、調理員との関りを深められるよう、保育室に入っただくなどを食育の一環として行ってきたい。</p>
<p><b>6. 職員の役割・資質向上</b> 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか</p>	<p>園内研修の取り組みとしてすみれ保育園としてのモンテッソーリ教育の考えを統一し全職員が理解できるように、非常勤を含めた簡単な勉強会を実施している。「お仕事」の取り組みや考え方、「自立」を念頭にいった関り方など、園としての取り組みを認識するよい機会となり共通理解と質の向上に繋がっている。また、職員は他部署からモンテッソーリ資格を持った職員からの学びも行っている。</p> <p>職員の役割を意識した A 会議、B 会議では主に新人のグループと中堅者グループに分け、全職員が順番にファシリテーターとなり、議題を決め、発言や考えをまとめる機会を設けている。</p> <p>また、安全訓練と危機管理として毎月テーマを 1 つ設けて全職員が参加できるように工夫を行うことで、職員の専門性の向上に努めている。</p> <p>今年度は、外部研修にも全職員が参加、エクス保育園合同での新人研修の実施。外部での研修へ行くことで職員の学びへの関心が深まった。</p>
<p><b>7. 特別支援教育</b> 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができていますか</p>	<p>該当園児の担当職員を中心とした情報発信、療育機関との連携を行った。療育センターの巡回を行い、直接、相談や共有を行い理解に努めた。また、保護者との面談の機会を設けることが出来た。聴覚障害があるお子さまに関し得ては補聴器の使用の仕方や注意事項等をクラス担任中心に行い、全職員への共通理解に努めた。</p>
<p><b>8. 保健・安全指導</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができていますか</p>	<p>避難訓練は計画に基づいて実施することができた。消防署と連携し訓練も行った。</p> <p>また、今年度も消火訓練と同時にアレルギー提供、病院へのかかり方、ダイアップの使用法、嘔吐処理方法など非常勤職員を交えて行うことでいざという時に備えている。今後もマニュアルの見直しを行うことや避難誘導の際の危険箇所（ヒヤリハット）の洗い出し、置き去り事故防止のためのチェックリスト、人権擁護のチェックリスト等を活用した職員の意識を高める安全計画が必要。</p>
<p><b>9. 保護者との連携・情報</b> 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対</p>	<p>今年度は第三者評価を実施。保護者の意見を聞くことが出来、すみれ保育園の良い部分、課題点を見つめ直す機会となった。</p> <p>個人情報取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り扱うことができた。</p> <p>ドキュメンテーション、園行事は勿論、日々の保育士との会話などを通し、園の教育保育へのご理解を頂くことで保護者との共通理解を深めることができています</p> <p>情報の発信として、職員による YouTube でのお楽しみ動画配信を</p>

<p>応できているか 守秘義務を厳守しているか</p>	<p>行った。</p>
<p><b>10. 子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができているか</p>	<p>子育て支援としてイベントは行うことは控えたが、外部の方の一時預かりの受け入れを積極的に行っている。定期的な利用者が増えている。</p> <p>戸外では挨拶を中心に、全職員が取り組むことを意識し実施。次年度より、子育て支援や地域交流の実施を再開予定。近隣の方々安心して集まれる場所があること存在を知って利用頂くことに取り組んでいく。</p>
<p><b>11. 組織としての運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか</p>	<p>職員同士では常に連携を意識している。朝礼の際の1分間スピーチやサンクスカードを使用し職員間のコミュニケーションを深めることで、互いが声を出し合い、シフト等で職員配置に課題があるときは共有し助け合う姿がある。</p> <p>情報の共有はサイボウズ（グループウェア）を活用し、職員全体、クラス間、係などで分け関係職員が常に話し合いに参加できるようにしている。</p> <p>OJT制度を活用し、先輩職員が後輩職員の仕事の指導や理解度を深める姿があった。また、会議ではファシリテーターを決め、発言の機会を設けた。一人ひとりが役割を意識して会議に臨むことができた。今後も工夫しながら「組織」を踏まえた取り組みに取り組んでいく。</p>
<p><b>12. 特徴的な教育</b> 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか</p>	<p>子ども同士では認定こども園との交流として、給食室見学、保育園見学、幼稚園見学、園庭利用などを行っている。また、職員間ではエクレスフィアの見学、新人職員の研修会を行い幼児教育部門での交流の機会を設けている。しかしながら、岩谷学園は専門学校等も存在し、互いに他の部署への理解を深めるため交える場が少なく、他部門の様子が伝わっていないことも多々見られる。今後はなにかしらの交流をすることで連携を図りたい。幼児教育部門間での交流は今後の園児獲得に向けて、必要不可欠なものとなるので、職員間が互いに連携を取れる環境を考えていきたい。</p>

## 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 保育環境	モンテッソーリ教具の計画書の作成 保育室の美化 自然環境の利用
2. 行事	子どもにとって、保護者にとっての「最善の利益」を考え、計画、実行していく
3. 食育	調理員との関り
4. 職員の役割・資質向上	外部研修の参加 内部研修での資質向上に努める
5. 保健・安全指導	マニュアルの確認と見直し 職員の共通認識
6. 保護者との連携・情報	ドキュメンテーションの作成 参加型保育の実施 SNSでの発信 個人面談の充実
7. 組織としての運営管理	自己発揮ができる職場環境 組織人としての在り方と取り組み

2024年3月7日